

第21回 介護・医療連携推進会議次第

平成29年4月24日 16時00分～
ケア・オフィス 優 (介護看護課)

<出席者>

小樽市医療保険部 介護事業所担当主幹	佐藤 正樹 様
小樽市医療保険部 介護保険課 給付係	山口 菜穂 様
南部地域包括支援センター	三浦 謙吾 様
中部地域包括支援センター	小笹 雄大 様
東南部地域包括支援センター	坂田 和正 様
北西部地域包括支援センター	齋藤 彰子 様
ケア・オフィス 優 管理者	二丹田 早稲子
ケア・オフィス 優 介護福祉士	屋代 利恵子
ケア・オフィス 優 事務職員	齋藤 智世

1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 集計報告

① 1月、2月、3月の集計

- ・新患、終了ともになし
- 利用者数 10名

② 疾患の別

- ・脳梗塞後遺症
- ・脊髄小脳変性症
- ・廃用症候群
- ・アルツハイマー型認知症
- ・脳血管性認知症
- ・変形性膝関節症
- ・視神経脊髄炎
- ・糖尿病
- ・パーキンソン病
- ・大腸がん術後

③ エリア

幸～桜町

2. 定期巡回サービス内容報告

- ① 排泄介助 (パウチ便廃棄、バルーンバック尿廃棄、おむつ交換、ポータブルトイレ処理)
- ② 血糖計測とインスリンの声かけ、見守り
- ③ 軽微な傷の処置
- ④ 配膳、下膳、食事介助
- ⑤ 内服介助、確認
- ⑥ 起床、就寝介助
- ⑦ 買い物、調理、洗濯、掃除などの生活支援
- ⑧ 洗顔、清拭、洗髪、足浴、手浴、口腔ケア
- ⑨ 更衣、体位交換
- ⑩ 介護相談
- ⑪ 通院介助 (自費)
- ⑫ 入浴介助

3. 随時対応サービス内容報告

- ① 発熱、下痢
- ② 腰痛、転倒後の背部痛
- ③ 血圧低下
- ④ 臀部皮膚ただれがひどい
- ⑤ しゃっくりが止まらない
- ⑥ 尿バック漏れ
- ⑦ パウチからの便漏れ
- ⑧ (心不全の方) 体重増加、浮腫

*要請者は殆どがご家族と定期ヘルパー。サ高住の方は守衛より電話にて。

4. 随時訪問サービス内容報告

なし

必要と思われる時間帯に定期訪問を増やすことにより随時訪問がない状況となったと思われる。

5. 訪問看護緊急対応内容報告

- ① 医師上申にて内服処方
- ② 受診手配
- ③ 下剤や解熱剤の調整と服薬介助
- ④ 処置の実施
- ⑤ バルーン交換、ストマ交換

6. 現状報告

- ・看護師正職員→2月、3月で2名退職。4月2名採用も1名退職。
26日1名採用、パート1名採用。7月1名採用予定
- ・理学療法士→7月1名採用予定
理学療法士の増員により、定期巡回でもリハビリ導入をしやすくなると考えられる。
- ・ヘルパー→3月1名職員採用、4月パート1名退職。

7. 問い合わせ状況

- ・透析利用者、認知症(現在入院中)内服4回/日。入浴1回/週の依頼→介護申請中

8. アザレア見学、管理者と面談

日時：平成29年4月13日(木)10時~11時

場所：サービス付き高齢者住宅アザレアおたる入船 (管理者 大久保 様)

平成28年10月~開所(市内2カ所の定期巡回随時対応訪問介護看護)同業として、今後も適宜情報交換を行う目的にて管理者と面談。

○介護医療連携推進会議の実際

参加者は南部包括、民生委員、町内会長、入居者、ご家族、訪問看護師にて構成
当社として、民生委員への働きかけも必要なのか、今後の課題。

また、双方、ご家族の出席は中々難しいが現状。

行政の参加がない事には、少し疑問が残った。

民生委員については広報おたる等で調べ、今後推進会議へご案内させていただきたいと考える。

○現状

ヘルパーSTを持たない事業所の為、(看護師は充足しているが、ヘルパー不足)、外部はサービス提供していない状況。(また、外部へ行く場合の端末も考えていない)

秋頃までには外部を受けたい意向はある。

現在利用者数 14 名(入居者)、延べ件数 4,000 回/月(うち随時対応 500 回トイレ誘導が主である)
施設ということもあり、当事業所と比べて訪問回数がかなり多い現状。

○施設見学

9. 利用者様アンケートに実施予定

- ・介護保険の道基準に則り、個別に無記名で実施→5月配布、7月集計
昨年実施しているが、その項目に自由記入欄を追加し実施予定。

10. 役員の皆様からの助言など

11. その他

現在、宣伝はしていないが、まだ利用の仕方が周知されていない現状がある。

問い合わせの際に、「看護師の訪問が複数回必要で、ヘルパーは不要」という場合もあり、ケアマネジャーへの周知がまだまだ必要と思われる。

訪問時の苦勞として、駐車スペースの確保が難しい場合がある。

- お寺や学校、教会などお願いしてみるのはいかがでしょうかという意見をいただいたので、今後検討したい。
また、包括支援センターにその地域の情報をいただいて、迷惑駐車にならないようしていきたいと考える。